

ウラナミシジミに対する有効薬剤

～ 1 齢幼虫に対する各種薬剤のさやへの食入阻止効果～

1. はじめに

2012、2013 年に日高地域の年内どりエンドウ産地では、ウラナミシジミによるさや被害が多発した。ウラナミシジミは成虫がエンドウの花付近に産卵し、ふ化した幼虫がさやに食入することから（図 1）、1 齢幼虫のさやへの食入阻止に対する有効薬剤を明らかにした。

2. 試験方法

サヤエンドウのさやを常用濃度に希釈し展着剤を加えた薬液に浸漬、風乾後、さや上に卵 10 個を等間隔に静置した。これをシャーレに入れ、



図1 (左)エンドウに産卵するウラナミシジミ成虫
(右)さや内を食害するウラナミシジミ幼虫

25℃の人工気象器内で飼育し、48 時間後にふ化数、死虫数、さや表面の食害痕数およびさや内に至った食入痕数を調査し、食入阻止率を算出した

3. 結果

パダン SG 水溶剤、マラソン乳剤はふ化率が低く、アフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤、トレボン乳剤、スカウトフロアブル、アディオオン乳剤、マブリック水和剤、プレバソンフロアブル、モスピラン顆粒水溶剤はふ化後の死虫率が高く食入阻止率が高かった（表 1）。

4. おわりに

ウラナミシジミは 9 月中下旬のエンドウ開花時から飛来し、10 月に被害のピークがみられ、12 月までさや被害が続くことから、発生初期から継続的に防除を行うよう心がけたい。

（環境部 岡本 崇）

表1 ウラナミシジミ1 齢幼虫に対する各種薬剤のさやへの食入阻止効果

系統名※1	薬剤名※2	希釈倍数	ふ化率 (%)	死虫率 (%)	食害痕数	食入痕数	食入阻止率※3 (%)
ネライストキシン類縁体	パダンSG水溶剤	1500	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
アベルメクチン系	アフーム乳剤	2000	93.3	100.0	7.7	0.0	100.0
スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤	5000	100.0	100.0	1.7	0.0	100.0
	トレボン乳剤	1000	90.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	スカウトフロアブル	1500	73.3	90.0	2.3	0.0	100.0
ピレスロイド系	アディオオン乳剤	3000	60.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	マブリック水和剤	4000	83.3	100.0	0.0	0.0	100.0
有機リン系	マラソン乳剤	1000	13.3	100.0	0.0	0.0	100.0
ジアミド系	プレバソンフロアブル	2000	96.7	100.0	11.3	0.0	100.0
	フェニックス顆粒水和剤	2000	93.3	6.0	21.3	11.0	21.4
ネオニコチノイド系	モスピラン顆粒水溶剤	2000	90.0	100.0	1.3	0.3	97.6
	スタークル顆粒水溶剤	2000	90.0	70.0	5.3	2.3	83.3
MET I 剤	ハチハチフロアブル	1000	100.0	0.0	17.0	9.3	33.3
クロルフェナピル	コテツフロアブル	2000	96.7	83.3	16.7	11.0	21.4
ピリダリル	プレオフロアブル	1000	96.7	10.0	26.7	20.7	0.0
	無処理		96.7	0.0	21.0	14.0	-

※供試卵数は10個/さや、3反復。48時間後調査。

※1 系統名はIRAC分類Chemical Classによる。

※2 供試薬剤は2015年3月時点でサヤエンドウまたは実エンドウに登録がある。

※3 食入阻止率: $100 - (\text{処理時の食入痕数} / \text{無処理の食入痕数}) \times 100$